

トップアスリートから アートビジネスへの転身

——1978年（昭和53年）にイギリスのソリフルで開催された国際スケート連盟（ISU）主催の「ISUショートトラック・スピードスケート選手権大会1500m」で2分35秒18という世界記録を樹立しました。この大会のことをお聞かせください。

伊賀静雄（以下・伊賀） この大会はゴール前で転倒し2位でした。このときはスケートのブレードがゴールラインを通過した段階で記録になっていましたので、それで公認されました。ショートトラックという種目は反則が多く、このときも隣の選手に押されて転びました。すぐにクレームを付けましたので、相手選手は失格になったはずですが。

——同年、ベルギーで開催された国際大会時の3000mでも日本新記録を出しました。こうした数々の記録を出したスピードスケートですが、スケートを始めたきっかけは何だったのですか？

伊賀…小学生のころ、当時は今よりも寒かったと思いますが、茶路川が凍っていたので、そこでスケートをしていました。「下駄スケート」という長靴に紐で刃を縛り付けたものを履いて遊んでいました。それが始まりです。白糠中学校はグラウンドに水をまいて結氷させ、体育の授業でスケートをしていました。私が25歳くらいのときの話ですが、当時白糠中学校にいた吉田哲之先生に頼まれて、白糠中学校のスケート教室で講師を務めたこともあります。



●プロフィール● いが しずお
1950年12月9日白糠町生まれ。中央大学法学部通信課程中退。15歳で上京し、築地の魚問屋に就職。その後、書店などを経て1967年に孔雀画廊へ就職する。1978年にショートトラックスピードスケート世界大会の1500mで世界記録を樹立。1983年に東京都スポーツ功労賞を受賞。妻と一男一女。

——伊賀さんは中学卒業後、上京しました。不安な気持ちもあったと思いますが。

伊賀…実家は和天別駒越で酪農家をやっていました。6人きょうだいでしたし、お金がなかったので、高校に行きたくても行けない時代でした。それで東京の築地に集団就職しました。朝の2時半くらいに起きて、魚河岸という市場で働いていました。寝坊してよく殴られましたよ（笑）。今のようないやうなパワーハラスメントとかはなくて、殴られて仕事を覚えると

——そのような厳しい生活の中で、どのようにしてスケート選手になつたのでしょうか。

伊賀…晴海埠頭に国際貿易センターというところがあり、そこが冬になると1周300mくらいのスケートセンターになるんです。そこへ仕事が終わると遊びに行っていました。ある日、いつものようにスケートを滑っていると、江東商業高等学校で